

ココロとカラダをダブルできれいに!

WEST

Hanako

Ken Doze

www.hanakowest-cafe.com

2005年
2月号
490yen

2005年をもっとハッピーに!
頼れるヒーラー&
占い師名鑑

チャネリング/ヒプノセラピー(催眠療法)/ボディワーク
関西人気女流占い師が占う今年の運勢
めると評判のロコミ占い師

2005年関西 最新「ラクやせ」ダイエット
カラダの中から生まれ変わる

体内浄化 ダイエット

浄化に注目した最新スポット/メディカルで体内サビ除去/東洋「浄化針」で代謝力アップ/老廃物を流し出す最新汗出しスポット
温泉上スパで浄化&ヒーリング/サプリメントで体内浄化力をサポート/水と酢で体内リセット/最新エステメニューでボディリセット

イケメン・インストラクター名鑑
話題のダイエットアイテム徹底ジャッジ!

毎日5分! 最新パワーヨガで冬太り解消!
理想のボディを作る
目的別1週間ダイアリー

月組大劇場公演
「エリザベト」
花組大劇場公演
チケットプレゼント
応募券付き!

ザッツ・
タカラヅカ2005
スペシャルインタビュー

彩輝 直、湖月わたる、春野寿美礼
安蘭けい、瀬奈じゅん、貴城けい、
水 夏希、霧矢大夢、大和悠河
涼 紫央、柚希礼音、辻 一帆、音月 桂

[新連載]
幸せな結婚のために
江原啓之の
スピリチュアル
ブライダル



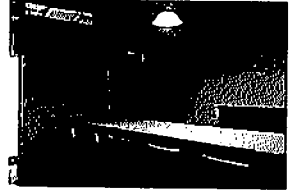
KYŌのお言葉

写真/東野英

第19回

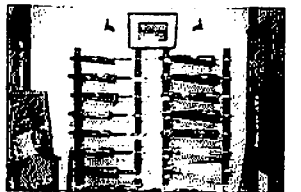
じゅんさい

入江的「じゅんさい」がわかる店。



「酒陶榎野」
☎075-253-4310

豆はカフェ、夜はバー。若い子でも集まるけれど、おじさんも寛げる。榎野はじゅんさいな店だ。そしてオーナーの榎野くんは、じゅんさいな男。どちらも、ナイヴでしなやか。2階で売られている彼の集めた骨董も、肩の力が抜きたい感じのものが揃っている。●京都市中京区寺町御小路西入ル南側 ☎13:00~18:00(18:00~バータイム) 水曜定休



「日吉屋」
☎075-441-6644

和装というキモノにあわせる印象があるけれど、そんなことはない。和装を台無しにしちゃう洋傘とは違って、色鮮やかな蛇の目はどんなファッションにも寄り添う。じゅんさいなアクセサリーである。雨の日が待ちどおしくなる傘って、こういうのをいうんだよね。●京都市上京区寺ノ内通堀川東入ル百々町546 ☎10:00~18:00 水曜定休

©JASRAC 出0416346-401



いわったッッッはッ さそり座の女……ならば、お気の済むまま笑ってあげたいが、じゅんさいな女は笑えない。笑わせてもらえない。笑える部分がない。さそりには毒があつて、それは後で効くというところらしい。じゅんさいな女に毒はないけれど決して薬にも栄養にもならない。遊びのつもりで付き合うと地獄の底までついてくる女は確かに怖いけど、遊んでいるつもりがいつの間にかのらりくらりと遊ばれてしまっているシチュエーションもかなり怖い。本当の悪女とは、さそり座の女ではなく、京都に棲息する「じゅんさいな女」ではなからうか。

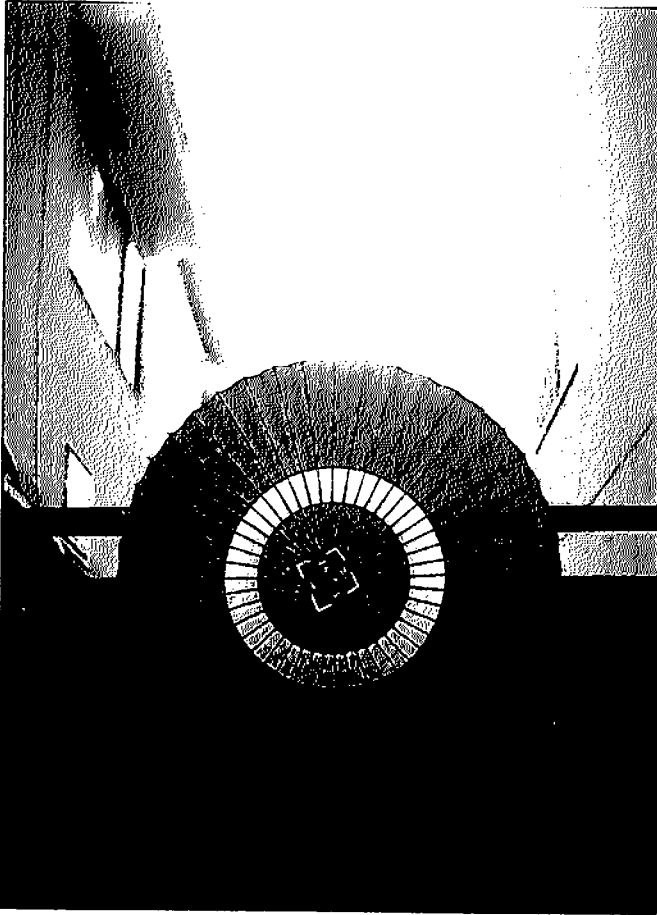
主な産地が秋田になった今でも京都産「じゅんさいな人」は不滅です。

おかずの一品に加えていただろう。そのせいか毎日の食卓に上るほどポピュラーな食材ではないものの京都人にとっては親しみのあつた存在だ。芋は泥中の根茎から長く伸び、楕円形の葉を互生する。ご存知のようにこの芋と若葉がゼリー質のぬめりに被われており、京都人は酢の物にしたり赤だしの味噌汁に入れたりしてアチアチはじける歯ごたえやツルツルした喉越しを楽しむ。だが、そんなキヤラクターが仇となって、どんなに上手に箸を操っても決して捕まらない食べ難い困ったヤツでもある。このことから頼みどころがない人間を指して京都人は「じゅんさい」と表現するのだ。

じゅんさいはスイレン科の多年生水草。古名をスナワともいう。現在は採れなくなつたものの「深泥池」という特産地を持っていた京都では、はるか昔からこれを食べてきた。「万葉集」にも詠まれていた。だいたいこの地は建部以前は無数の湖沼に覆われた湿地帯であつた。いくらでも生えていたはずである。今でこそ科亭で使われる高級素材の印象があるけれど、かつて人々は山菜を摘むように水際に自生するこれを取獲して晩

入江敬彦

Athico Ilye
1961年、京都・西陣生まれ。MICHIKO LONDON コーディネーターを経て91年退任。「Esquire」など雑誌を中心に活躍。ベストセラー「京都人だけが知っている」(津泉社)新装版をはじめ、「京都人だけが知っている」(WAVE出版)など著書多数。最新刊は「ほんまに京都人だけが知っている」(津泉社)新装版



主な産地が秋田県となった今日でも、じゅんさいな人間は京都からいなくなることはない。と、いうか、ほとんどの京都人がどこかにじゅんさいな部分を持っている。純粋なじゅんさいが評価されることはあつても、じゅんさいさんが褒められることはあまりない。それだけでなく昔ながらドトでもとれる「京産道い」を駆使してよそさんやケムに巻いている京都人から「じゅんさい」のレッテルを貼られてしまうような人間は相当にワケわからん連中ではある。が、はつきり言つて当節は「もうちょっと、じゅんさいになりなはれ」と思うことのほうが多い日本ではある。なんだ、あの、バラエティ番組の大半に導入されている画面の半分を覆い隠さんばかりの字盛テロップは!

かつて「じゅんさい」なる表現は京都以外でも流通していた。それがいつのまにやら地域限定の京都語になってしまったのは、じゅんさいを食べる機会が減つたからではなく、じゅんさいな人々がいなくなつたからではない。字盛テロップに駆逐されてしまったのだ。こんな時代にあつて、もはやじゅんさいであることはある種の知性の表れといえるかもしれない。へじゅんさいな女も人を惑わす悪女ではなく、魅力的な女を意味するだろう。だって、人間ってそんなに単純なものじゃない。白か黒かだけで生きているわけじゃないから。じゅんさいと呼ばれ、どっちつかずと誇られている人間は、その実「アツレー」である「ことをはつきりと表明できる思慮深い思い遣りある人間なのだ。